

# VIII 家畜の改良



## Ⅷ 家 畜 の 改 良

### 1. 概 要

家畜の改良に関しては、本県の自然特性を生かし、資質及び能力を高めることによる生産性の向上を図るため、優良種畜の確保に努めているところである。

肉用牛においては、増体能力及び肉質の改善に重点をおいた効率的かつ組織的な改良増殖を促進するため、遺伝的能力評価値を利用した肉用牛群改良基地育成事業、人工授精普及推進事業等を積極的に推進している。また、おきなわブランドとしての肉用牛生産体制を強化するため、「定時・定量・定質」の出荷原則に基づく拠点産地の育成に努め、令和2年2月までに、肉用牛の「子牛」9地域、「肥育牛」2地域を拠点産地として認定している。

乳用牛については、家畜改良センターを活用した優良乳用牛の育成・供給及び県外導入や牛群検定による能力更新を推進し、安全で安心な県産牛乳を安定的に県民に供給していく。

豚については、家畜改良センターを種豚改良の中心に位置づけ、能力の高い種豚の生産・供給を行う。ランドレース種については、平成17年度から平成23年度までの計画で系統造成を実施し、平成24年度から繁殖性及び産肉性に優れた「系統豚造成豚（オキナワアイランド）」の供給を開始した。大ヨークシャー種及びデュロック種については、優良種豚の県外導入により能力向上を図っている。また、おきなわブランド豚増頭体制確立事業において、肉豚の生産性向上を図り、安心・安全・高品質なおきなわブランド豚及びアグーブランド豚の供給体制を整備する。

山羊については、おきなわ山羊改良基盤整備事業において、肉用山羊1頭あたりの肉量増加を目的とした肉用山羊の改良を図るため、肉用山羊の改良体制を整備する。

## 2. 家畜の改良目標

### (1) 肉用牛

ア. 体型に関する目標数値（令和7年度）

体 高	胸 囲	かん幅	体 重
cm	cm	cm	kg
130	190	48	520

注) 数値は、成熟時（36ヶ月齢以上）の雌牛のものである。

体重は、適度な栄養状態にある雌牛のものである。（分娩前後を除く）

イ. 去勢肥育牛の能力に関する目標数値（7年度）

肥 育 開 始 時		肥 育 終 了 時		枝肉重量	1日平均増体重	肉質等級
月齢	体重	月齢	体重	kg	kg	
ヶ月	kg	ヶ月	kg			
8.5	240	24~26	720 ~750	445~465	0.88以上	3~4

ウ. 繁殖能力に関する目標数値（7年度）

初産月齢	分娩間隔
23.5カ月	12.5カ月

エ. 種雄牛の産肉能力に関する育種価向上値票数値（7年度）

日齢枝肉重量	脂肪交雑
+72 g	BMS No. ±0

### (2) 乳用牛

遺伝的能力の改良の推進と併せて、飼養管理の改善を図ることとし、能力及び体型に関する目標を次の通りとする。

	品 種	能 力 (305日 2回搾乳)				
		乳 量	乳脂肪	無脂乳 固形分率	乳蛋白質	初 産 月 齢
現 在 (平成25年度)	ホルスタイン	kg 7,818	% 3.84	% 8.76	% 3.30	カ月 25
目 標 (令和7年度)	ホルスタイン	8,500	3.90	8.80	3.30	24

(3) 豚

純粋種豚の能力に関する目標数値

	品 種	繁 殖 能 力		産 肉 能 力			
		育成頭数	子 豚 総体重	1日平均 増 体 重	飼 料 要求率	背腰(ロース) の 太 さ	背脂肪層 の 厚 さ
現 在	ランドレース	9.2	55.0	952	3.0	37.0	1.9
	大ヨークシャー	9.1	47.0	1,011	3.0	36.0	1.7
	デュロック	8.6	43.0	1,045	2.9	35.0	2.1
目 標 (令和7年度)	ランドレース	10.8	68.0	960	2.9	37.0	1.7
	大ヨークシャー	10.9	69.0	1,020	2.9	35.0	1.7
	デュロック	9.4	53.0	1,050	2.9	41.0	1.7

- 注：1) 繁殖能力の数値は、分娩後3週齢時の母豚1頭当たりのものである。  
 2) 産肉能力の数値は、雄豚の産肉能力検定（直接検定）のものである。  
 3) 1日平均増体重及び飼料要求率の数値は、体重30kgから105kgまでの間のものである。  
 4) 背腰(ロース)の太さ及び背脂肪層の厚さは、体重105kg到達時における体長2分の1部位のものである。

肥育もと豚生産用母豚の能力に関する目標数値

	1腹あたり 生産頭数	育 成 率	年間分娩回数	1母豚当たり 年間離乳頭数
現 在	9.8	91	2.1	18.0
目 標 (令和7年度)	11.0	95	2.3	24.0

注：育成率及び1腹あたり年間離乳頭数は、分娩後3週齢時のものである。

肥育豚の能力に関する目標数値

	出 荷 日 齢	出 荷 体 重	飼 料 要 求 率
現 在	199	108	2.9
目 標 (令和7年度)	183	113	2.9

### 3. 家畜改良関連事業

#### (1) 肉用牛群改良基地育成事業

この事業は、肉用牛の品種の特性を活かした効率的かつ組織的な育種改良により、産肉性等経済能力の向上を図るため、改良基礎牛の選定及び計画交配、産肉能力検定等による優良肉用種雄牛の選抜・確保、効率的利用を行うとともに、雌側からの改良の推進も行うもので宮古、伊江村、石垣島、久米島、今帰仁村、糸満市、やんばる、中部地区、南部地区和牛改良組合などを中心に事業を実施している。



福茂北 田尻系の濃い血統、肉質改良、CW3排除

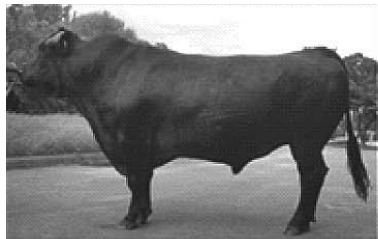


福福勝 百合茂母体に最適、肉質、体積、均称の改良

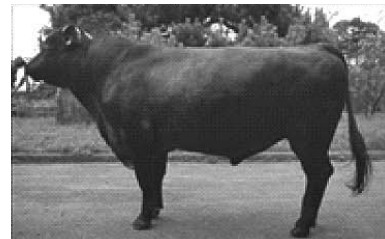


美百合 ゲノム育種価全項目抜群！ロース芯の改良

種雄牛候補牛



北百合平 子牛の増体・筋張り、肥育期間の短縮



百合北 脂肪交雑歴代2位、枝肉上物率100%



勝久平 雌子牛の肥育成績良好、県内母牛群改良

R2年度 種雄牛選抜牛

#### (2) 人工授精普及推進事業

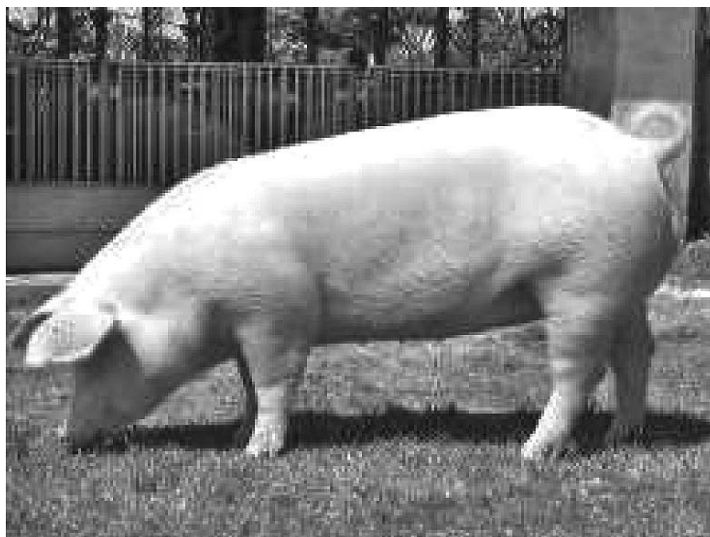
凍結精液の製造その知識及び技術に関する講習会を開催し家畜人工授精、家畜授精卵移植等の普及定着を図り、肉用牛の改良を効果的に行う。

#### (3) 肉用牛優良繁殖雌牛増頭改良推進事業

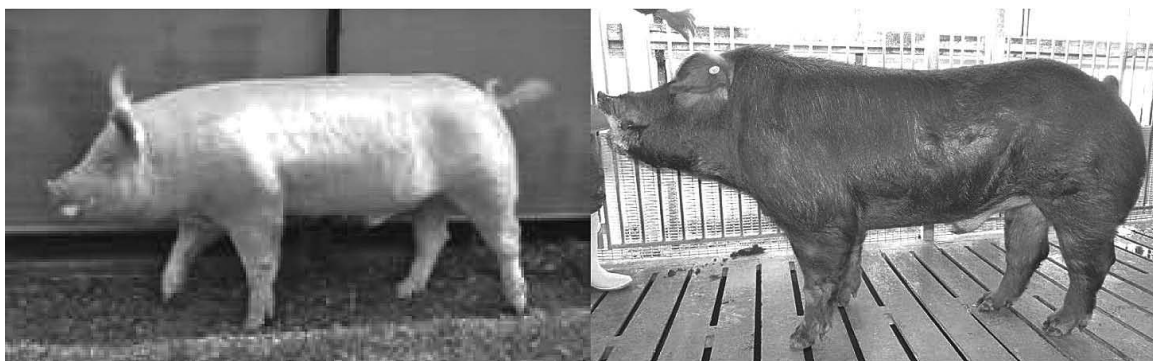
肉用牛の増頭を図るため、肉用牛拠点産地を中心に講習会等を開催するとともに、若い雌牛のゲノミック育種価評価の分析補助を行い、優良な繁殖雌牛の生産・保留を促進する。

#### (4) 種豚改良推進事業

家畜改良センターにおいて、種豚改良を推進し、優良種豚及び精液を養豚農家へ供給している。系統造成部門では、高度な統計育種技術を用い、ランドレース種の繁殖性・産肉性・強健性等の形質について改良を図り、能力・斉性が高い系統造成豚の作出を行っている。増殖部門では、県外の優良な純粋種豚（大ヨークシャー種、デュロック種）を導入し、計画交配・選抜を行い、優良種豚の作出を行っている。



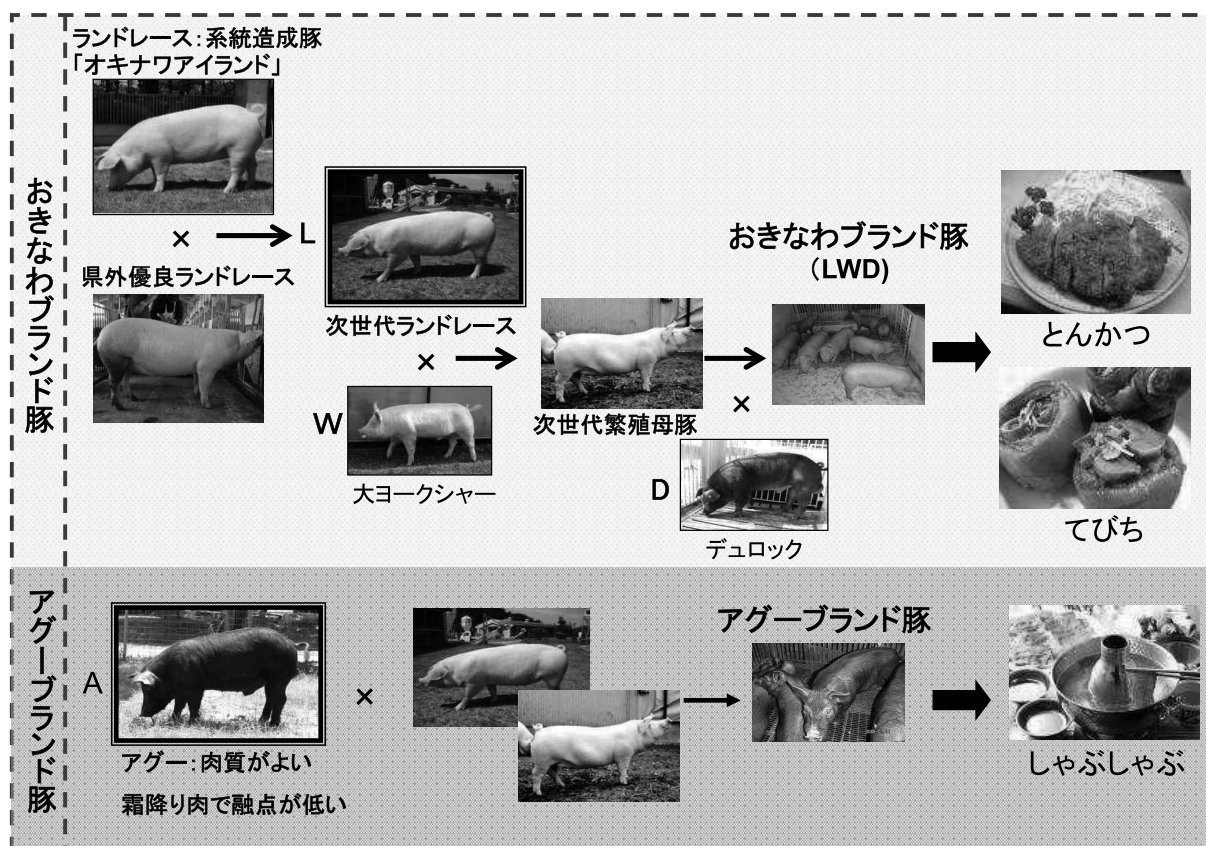
沖縄初の系統造成豚ランドレース種「オキナワアイランド」



優良純粋種豚（大ヨークシャー種、デュロック種）

### (5) おきなわブランド豚増頭体制確立事業

近年、原油や飼料費の高騰により、養豚農家の経営が圧迫されており、生産性の高い肉豚生産を行う必要がある。さらに本県の1母豚当たりの肉豚出荷頭数は、九州圏と比較して少なく、育成率が低い課題がある。本事業では、系統造成豚「オキナワアイランド」をもとに県外導入の優良種豚との交配で繁殖性・抗病性を兼ね備えた「次世代ランドレース」を作出する。おきなわブランド豚やアグーブランド豚の増頭のため次世代ランドレースと大ヨークシャーと交配し「次世代繁殖母豚」の供給体制を整備する。



### (6) おきなわ山羊改良基盤整備事業

本事業では肉用山羊を改良して1頭あたりの肉量増加を図るため、肉用山羊を大型化する改良を推進する。改良推進の基盤となる体制作りのために、協議会を設立し、改良目標や交配計画の策定を行う。また、畜産研究センターに国内、海外から優良種山羊を導入し、凍結精液を製造・供給および後継山羊の作出を行う。一方、県内山羊生産農家に飼養されている山羊の体型調査を実施して大型の種山羊を選定し、交配を実施する。

また、優良種山羊の導入支援により山羊生産組合における改良体制作りをサポートする。さらに、山羊品評会を開催して山羊生産者へ改良の普及・啓蒙を図り、山羊生産技術講習会を開催して生産技術の向上を図る。

本事業の推進により、肉量増産を目指し、生産農家の収入安定につなげる。